

ガーディアン大野青色パトロール隊（熊本県）[つながる・ひろげる防犯の輪]

設立の経緯

平成16年3月に群馬県で、同年11月に奈良県で、小学1年生児童の誘拐・殺害事件が発生した当時、PTAでも「対岸の火事ではない」と話し、注意喚起はしたものの具体的な対策は取りませんでした。

そして平成17年3月、大野小学校女児に対する不審事犯が発生しました。なぜ昨年11月の事件発生後すぐに具体的な対策を取らなかったのか、悔やみました。小学校では、保護者への注意のお便りと役員によるパトロールを実施、「我が子は親が守る」信念のもと、PTA組織に地域安全委員会を設け、不審者対策を担うことになりました。

しかし3カ月後、岱明町は異常事態に陥りました。わずか18日間で10件もの不審者出没の報告がなされました。大野小学校区では、現役保護者だけでは長期間のパトロール、見守りの継続は不可能と考え、大野校区における不審者対策会議を開き、玉名市を初め区長会、老人会長、民生委員、学校、PTA、行政の方々にご参加いただき、意見、指導をもらいながら、校区全体で複数の取り決めがなされました。これが地域とPTAがひとつになった不審者対策の始まりでした。学校では、各行政区ごとに下校時の当番を決め、必ずパトロールを実施する旨が取り決められました。岱明町全体での活動が不可欠でしたので、4小学校と連携を取りながら各校区の状況に応じた活動がされました。

そして、「地域の子供は地域で守る」という気持ちのもと、平成18年7月7日に隊員数は284名で「ガーディアン大野」が発足しました。隊員には防犯ベストと帽子が配布されました。下校時の迎えはもとより、買物、散歩、自宅での洗濯物の取り込み時等、人目につく時は必ずベストと帽子を着用することにより、「ここは地域住民の目が光っているぞ」と不審者に認識させる抑止効果が大きな目的の一つでした。

このベストと帽子には思わぬ効果が現れました。着用した住民同士のあいさつ、会話だけでなく、子供たちからも地域住民にあいさつを始めるようになりました。地域の防犯意識はより一層高まり、子供を守る意識は各世代層へ確実に広まっていきました。

そして、ついに念願であった青パトの購入、運行にこぎつけ、「ガーディアン大野青色パトロール隊」が発足しました。結成平成19年5月16日、隊員102名。6月25日に玉名警察署長、玉名市長を初め、各団体の方々、隊員、大勢の地域の皆さんとともに、感無量の思いで出発式を行いました。最初の不審者出没から1年4カ月後のことでした。

隊員の確保、運営方法などについて幾度も話し合いが行われ、校区内12行政区の区長が班長となり、各々の行政区で隊員を募集することが取り決められました。各班でほとんど毎年変わらない隊員数を確保いただいており、発足以来12年間、100名以上の隊員を確保できています。

活動資金については、玉名市の「玉名21の星事業」という助成金事業により、平成18年度より各小学校にまちづくり委員会を設置し、よりよき地域づくりの活用のためにこの助成金が支給され、これを元に青パト1台を購入することができました。しかしながら、運営資金は対象外でしたので、校区の皆さんのご協力により、各戸より年間200円の防犯協力金としていただいております。安定した運営費により、計画的かつ継続的な活動が可能になっています。



活動内容

○青色防犯パトロール

本年度は、隊員115名、稼働日数205日間を予定しています。原則2人1組で、各隊員年間4日程度乗車します。

パトロール日程は、まず学校から年間の登校日と下校時間の情報を2月末にいただき、それを基に12班の班員を青パト乗車日に振り分けています。

○青色防犯灯の推進

校区内182か所全ての防犯灯を青色に変更しました。区長はじめ約50名の地域の方々と取替作業を行いました。その翌年からも、各行政区からの要望に応じて通学路を優先に、毎年、数灯から十数灯の青色防犯灯を新設しました。

また、当時不審者出没が多かった区間約300mに集中して青色防犯灯を設置し、「ブルーセーフティストリート」として、犯罪の未然防止に努めています。

○駅駐輪場における自動車盗難対策「自転車に勝手に「鍵かけ」運動」

JR大野下駅は一時期自転車の盗難が多発しました。その対策として、本隊の主力隊員でもある駅員が、他人の自転車に自分で鍵をかけてしまうという離れ業をしています。鍵をかけた自転車には、「自転車の盗難が多発しております。鍵は必ずしましょう。鍵をしましたので、事務室へおいでください。」と表示をして注意喚起をしています。以後、盗難抑止に大きな効果を発揮しています。

○駅における防犯カメラの整備

昨年3月、JR大野下駅に従来の防犯カメラに加え、駐輪場向きの防犯カメラを設置しました。

○活動の周知と理解

大野小学校の児童と先生方が「学校応援団・感謝の会」を開催し、花の贈呈や肩もみ、給食を一緒に食べたり、学習の成果発表などをしてくれます。これが、隊員の士気向上にも大きな役割を果たしています。また、いつの頃からか、子どもたちが青パトの洗車をしてくれるようになりました。

今後の課題と解決に向けた取組方策

いかに後世に引継ぎ、継続していくかが最大の課題であると思います。

「地域の大人が地域の子供を育てるという意識をもつこと」「平素から各世代の連携を密にしておくこと」「活動を継続できる体制をつくること」「やってよかったと思える達成感が持てること」をしっかりと考えながら、世代連携の防犯活動の継続を目指して、平素から各世代の連携を密にしておくことが解決と実行に繋がるものと考えています。この子どもたちの笑顔のために、パトロール隊という名の組織がなくても、安心安全な地域づくりができることを願ってやみません。

活動内容

青色防犯パトロール

つながるひろげる防犯の輪

大野小学校の年間行事予定表を基にパトロール日程表を作成し、児童の登下校時の通学路付近の防犯パトロールを実施

平成30年度の年間活動予定日数

205日

◆青色防犯灯の推進◆

大野校区内のすべての防犯灯を青色に変更





校区で最も不審者出没が危惧される一定区間を「ブルーセーフティストリート」に設定し、青色防犯灯を集中的に設置

◆駅における自転車盗対策◆

大野下駅駐輪場は、通学の学生の利用が多く自転車盗が多発

自転車に勝手に「鍵かけ」運動

ガーディアン大野の隊員である同駅員の発案により、駅員在駐の時間帯において無施錠の自転車に注意喚起のプレートをつけて



自転車盗が劇的に減少
目に見える効果を実感できた

子供達による青パトの洗車

つながるひろげる防犯の輪

児童の防犯意識の向上

青パト隊の車両は、普段大野小学校の車庫にて保管。屋休み後の掃除の時間を利用して、大野小学校の子ども達が、青パトを洗車してくれます。



子ども達の声
いつも遅くまで帰ってくるので、感謝の気持ちを込めてふいています。パトロール隊はかっこいいです！

子供たちがピカピカしてくれま